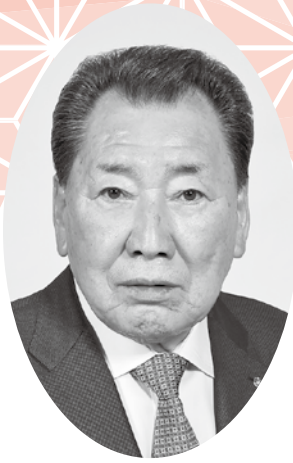


新年のごあいさつ



小平町長

閑 次 雄

年頭にあたって

新年あけましておめでとうございます。

令和8年の輝かしい新春を町民の皆様とともに迎えることができ、ましたことを心からお慶び申し上げますとともに、日頃より町行政の推進にあたり、深いご理解とご協力を頂いておりますことに敬意と感謝を申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和7年を振り返りますと国内外の情勢が大きく変化した年であり、国では「令和版地方創生」を掲げ、地方の自立する成長を支援する政策が強化されつつも、米価を代表とする物価の上昇やエネルギー価格の高騰が国全体に影響を与えました。

日本の農林水産業は、深刻な高齢化と人口減少による担い手不足、海洋環境の変化や国際情勢の影響による価格高騰など構造的な課題に直面しております。

このような状況の中で本町の一次産業ですが、農業にあっては、水稲は品質において全量一等米であり、集荷量は前年並みとなっており、低タンパク米の割合は4割程となっております。昨年来の米価高騰により、当年産米の農協販売額は昨年を上回ることとなりました。

畑作・野菜類・花卉は夏場の高温・干ばつにより着果率の低下によ

り収量の低下がみられましたが、肉牛については、おびらと牛繁殖センターの稼働により、生後120日目までの発育が標準値を上回る成果も出ており、また、良質牛の生産に意欲的に取り組んできた結果として、本年の南北海道家畜市場では和牛市場最高価格賞の3位を獲得したほか、北海道肉用牛共進会でも、第2部母系群で優等賞2席を受賞しております。

漁業においては、ニシンは好調を維持していましたが、長引く海洋変化の影響を受けタコは依然として不漁が続き、秋サケは昨年の不漁に対しやや持ち直しております。ホタテにつきましても、稚貝は全道的不振の状態を取扱金額が大きく減少しておりますが、韓国向け成貝は、数量、単価ともに増となり、取扱金額も昨年を上回っております。

こうした現状ではありますが、本町における一次産業の活性化は新たな産業や雇用の創出につながる原動力となるものですので、今後も一次産業を含め地域経済を支える産業支援施策を継続的に実施することは極めて重要であると考えております。

本年は、私にとりまして4期目の最終年を迎え、就任以来15年の歳月を経過しても、なお、町民皆様の期待とその職責の重大さに身の引き締まる思いでございますが、まもなく始まる新年度予算編成においては、私の当初からの基本理念であります「まちづくりの主役は町民であり、町民の目線に立って自ら出向き、自ら見て聞く、現場主義」を徹底し、これまで培った基盤をさらに発展させるよう努めてまいります。

本年の予算編成は、町民の皆様が安心して暮らせるまち、そして災害に強いまちづくりを念頭に公営住宅の計画的な建替え、橋梁長寿命化工事、老朽化した小平消防署庁舎建設を進めるとともに大型消防車両の更新などを視野に入れつつ、安全安心を基本に更なる発展を目指し、地域の創生に全力で取り組んでまいります。

結びに、町民皆様の町政へのなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、町民皆様にとりまして本年も平穏で明るく希望に満ちた幸多き年であり、新年の心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。